



Troubleshooting Trace Setting の設定

[Troubleshooting Trace Settings] ウィンドウでは、トラブルシューティング トレースの事前設定値を設定する対象の Cisco Unified CallManager のサービスを選択できます。この章では、特定のサービスのトラブルシューティング トレース設定値を設定またはリセットする方法を説明します。



(注) 長期間にわたってトラブルシューティング トレースを使用可能にすると、トレース ファイルのサイズが大きくなり、サービスのパフォーマンスが低下する可能性があります。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CallManager Serviceability で、[Trace] > [Troubleshooting Trace Settings] の順に選択します。
- ステップ 2** [Server] ドロップダウン リスト ボックスで、トラブルシューティング トレース設定値を設定するサーバを選択し、[Go] をクリックします。
- ステップ 3** 次のいずれかの操作を実行します。
 - [Server] ドロップダウン リスト ボックスで選択したノードの特定のサービスをチェックするには、サービスのペイン（たとえば、[CM Services]、[CTI Services]、[Database and Admin Services] ペインなど）でサービスのチェックボックス（複数可）をオンにします。
この操作は、[Server] ドロップダウン リスト ボックスで選択したノードだけに影響します。
 - 次のいずれかのチェックボックスをオンにします。
 - [Check All Services] : [Server] ドロップダウン リスト ボックスで選択した現行ノード上のサービスのチェックボックスがすべて自動的にオンになります。
 - [Check Selected Services on All Nodes] : [Troubleshooting Trace Setting] ウィンドウで、特定のサービスのチェックボックスをオンにすることができます。この設定は、該当するサービスがアクティブになっているクラスタ内のすべてのノードに適用されます。
 - [Check All Services on All Nodes] : クラスタ内のすべてのノードに対して、すべてのサービスのすべてのチェックボックスが自動的にオンになります。このチェックボックスをオンにすると、[Check All Services] チェックボックスと [Check Selected Services on All Nodes] チェックボックスが自動的にオンになります。



(注) Cisco Unified CallManager ノードでアクティブにされていないサービスは、N/A と表示されます。

ステップ 4 [Save] ボタンをクリックします。

ステップ 5 1 つまたは複数のサービスのトラブルシューティング トレースを設定すると、トラブルシューティング トレースのリセットに関する次のボタンが有効になります。元のトレース設定値を復元する場合は、次のいずれかのボタンをクリックします。

- **[Reset Troubleshooting Traces]** : [Server] ドロップダウン リスト ボックスで選択したノード上のサービスについて、元のトレース設定値を復元します。クリックできるアイコンとしても表示されます。
- **[Reset Troubleshooting Traces On All Nodes]** : クラスタ内のすべてのノード上のサービスについて、元のトレース設定値を復元します。

リセット ボタンをクリックすると、ウィンドウが更新され、サービスのチェックボックスがオフになります。

追加情報

P.6-2 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [トレースの設定 \(P.5-1\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager Serviceability システム ガイド』の「[トレース](#)」